



<b>ファームウェア バージョン :</b>	R1.60.B031	
<b>ハードウェアバージョン :</b>	DGS-1510-20	A1
	DGS-1510-28	
	DGS-1510-52	
	DGS-1510-28P	
	DGS-1510-28X	A1/A2
	DGS-1510-52X	
	DGS-1510-28XMP	A1
<b>発行日 :</b>	2020/2/5	

本リリースノートには、D-Link 製スイッチのファームウェア更新に関する重要な情報が含まれています。ご使用のスイッチに対応するリリースノートであることを確認してください。

- 新しいスイッチにインストールを行う際には、デバイス上のハードウェアバージョンの表示を確認し、ご使用のスイッチがファームウェアのシステム要件を満たしていることを確認してください。ファームウェアとハードウェアの互換性についての詳細情報は、“変更履歴とシステム要件”の項を参照してください。
- 新しくリリースされたファームウェアへのアップグレードを行う場合は、“アップグレード手順”の項を参照しながら正しい手順でファームウェアのアップグレードを行ってください。

スイッチ本体に関する詳細な情報が必要な場合は“ユーザマニュアル”を参照してください。

### 目次 :

変更履歴とシステム要件 : .....	2
アップグレード時の注意事項 : .....	2
アップグレード手順 : .....	2
追加機能 : .....	7
MIB 及び D-View モジュールの変更点 : .....	7
コマンドラインインターフェースの変更点 : .....	7
修正した問題点 : .....	8
既知の問題 : .....	8

## 変更履歴とシステム要件 :

ファームウェアバージョン	リリース日付	モデル	ハードウェアバージョン
R1.60.B031	2020/2/5	DGS-1510-20	A1
		DGS-1510-28	
		DGS-1510-52	
		DGS-1510-28P	
		DGS-1510-28X	A1/A2
		DGS-1510-52X	A1

## アップグレード時の注意事項 :

ファームウェアのアップグレードを行う際に TFTP を使用する場合は、セーフガードエンジン機能を無効にする必要がありますのでご注意ください。

R1.50.B029 及びそれより古いバージョンをご利用の機器に、R1.60.B025 以降のバージョンの設定を読み込むことができませんのでご注意ください。

- R1.60.B025 以降のバージョンから、R1.50.B029 及びそれより古いバージョンへのダウングレードにおいて設定を引き継ぐことができません。
- R1.50.B029 及びそれより古いバージョンをご利用の機器に、R1.60.B025 以降のバージョンのコンフィグをリストアすることができません。

※R1.50.B029 及びそれより古いバージョンから、R1.60.B025 以降のバージョンへのアップグレード時の設定の引継ぎは問題ありません。

## アップグレード手順 :

ファームウェアアップグレードは、CLI または WebGUI から実行することができます。

### CLI を使用するアップグレード

1. スイッチの RS-232 シリアルポート（コンソールポート）と PC を接続し、ターミナルソフトウェアを起動します。ターミナルソフトウェアの設定は下記の通りです。（本手順書ではターミナルソフトウェアは Tera Term を使用しています。）
  - ボーレート : **115200**
  - データビット : **8**
  - パリティ : **none**
  - ストップビット : **1**
  - フロー制御 : **none**
2. 接続が正常に行われると、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。管理者のユーザ名及びパスワードを入力し、ログインします。初期値はいずれも「admin」が設定されています。

※R1.20 より古い FW バージョンをご利用の場合、パスワードの初期値は空欄になります。

3. ファームウェアをアップグレードするには、以下のコマンドを実行します。

コマンド	説明
copy tftp://location/filename flash: filename	スイッチにファームウェアをダウンロードします。
boot image filename	Boot up イメージファイルの変更をします。
show boot	現在のブートイメージと設定ファイル名を表示します。
reboot	スイッチをリブートします。

4. 次の例を参考にファームウェアのアップデートを行ってください。

(1) ファームウェアを本製品にダウンロードします。

```
Switch#copy tftp: //10.90.90.91/DGS-1510_Run_1_60_B031.had flash: DGS-1510_Run_1_60_B031.had
```

```
Address of remote host [10.90.90.91]?
```

```
Source filename [DGS-1510_Run_1_60_B031.had]?
```

```
Destination filename [DGS-1510_Run_1_60_B031.had]?
```

```
Accessing tftp://10.90.90.91/DGS-1510_Run_1_60_B031.had...
```

```
Transmission start...
```

```
Transmission finished, file length 10226968 bytes.
```

```
Please wait, programming flash..... 100 %
```

```
Please wait, programming flash for language files..... Done.
```

(2) ブートイメージを指定します。

```
Switch# configure terminal
```

```
Switch (config)#boot image DGS-1510_Run_1_60_B031.had
```

```
Switch (config)#end
```

(3) 現在のブートファイルを確認します。

```
Switch#show boot
```

```
Unit 1
```

```
Boot image: /c:/ DGS-1510_Run_1_60_B031.had
```

```
Boot config: /c:/config.cfg
```

(4) スイッチを再起動します。

```
Switch #reboot
```

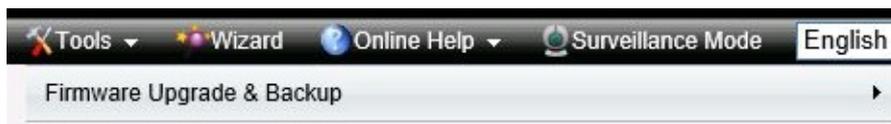
```
Are you sure you want to proceed with the system reboot? (y/n) y
```

```
Please wait, the switch is rebooting...
```

**注意：ファームウェアのダウンロード中およびスイッチの再起動中に、電源を切らないでください。電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。**

## Web-UI を使用するアップグレード

1. Java SE runtime environment をダウンロードして、お客様の PC にインストールします。
2. ブラウザを起動し、システムの IP アドレスを指定してスイッチにアクセスします。  
デフォルトのシステム IP アドレス : 10.90.90.90  
デフォルトのユーザ名 : admin  
デフォルトのパスワード : admin  
  
※R1.20 より古い FW バージョンをご利用の場合、パスワードの初期値は空欄になります。
3. [Tools] メニューから[Firmware Upgrade & Backup]を選択します。



### HTTP 経由でファームウェアのアップグレードを行う場合 :

- (1) [Firmware Upgrade from HTTP]を選択します。
- (2) [参照]をクリックしてローカルPC内のファームウェアファイルを指定 →[Destination File]にファームウェアが保存される場所とファームウェアのファイル名を入力します。



Destination File : ファームウェアの保存場所とファイル名を入力します。  
(例 : DGS-1510\_Run\_1\_60\_B031.had)

※Destination File のパスは¥記号使用不可。(設定例 : c:/firmware/DGS-1510\_Run\_1\_60\_B031.had)  
※スイッチのルートディレクトリに保存する場合はフォルダパス (c:/) 省略可。

- (3) [Upgrade]をクリックします。
- (4) ファームウェアのアップグレードが開始され、進行状況を示す画面が表示されます。  
そのままお待ちください。

**注意 : ファームウェアのダウンロード中およびスイッチの再起動中に、電源を切らないでください。電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。**

- (5) アップグレードが完了したことを示すメッセージ (「Done.」) が表示されます。手順 4 に進んでください。

**TFTP 経由でファームウェアのアップグレードを行う場合：**

(1) [Firmware Upgrade from TFTP]を選択します。

(2) 以下の画面で必要事項を入力します。

The screenshot shows a web form titled "Firmware Upgrade from TFTP". It contains the following elements:

- TFTP Server IP:** A text input field followed by two radio buttons: "IPv4" (selected) and "IPv6".
- Source File:** A text input field with a "64 chars" label above it.
- Destination File:** A text input field with a "64 chars" label above it.
- Upgrade:** A button located at the bottom right of the form.

TFTP Server IP : IPv4 または IPv6 を選択し、TFTP サーバの IP アドレスを入力します。

Source File : TFTP サーバのパスとファームウェアのファイル名を入力します。

(例 : DGS-1510\_Run\_1\_60\_B031.had)

Destination File : ファームウェアの保存場所とファイル名を入力します。

(例 : DGS-1510\_Run\_1\_60\_B031.had)

※Destination URL のパスは\*記号使用不可。(設定例 : c:/firmware/DGS-1510\_Run\_1\_60\_B031.had)

※スイッチのルートディレクトリに保存する場合はフォルダパス (c:/) 省略可。

(3) [Upgrade]をクリックします。

(4) ファームウェアのアップグレードが開始され、進行状況を示す画面が表示されます。そのままお待ちください。

**注意：ファームウェアのダウンロード中およびスイッチの再起動中に、電源を切らないでください。電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。**

(5) アップグレードが完了したことを示すメッセージ (「Done.」) が表示されます。ポップアップ画面を閉じ、手順 4 に進んでください。

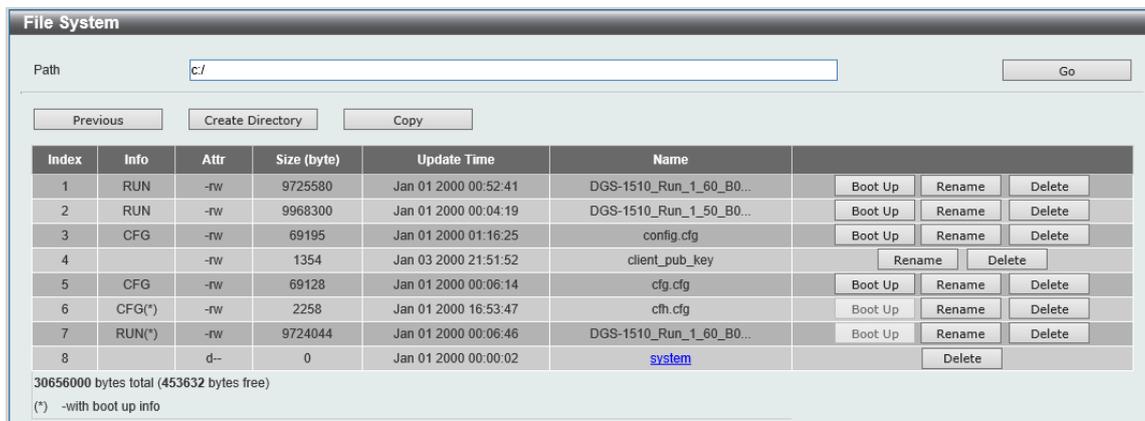
4. WebUI 画面左側のメニューで[Management] → [File System]を選択します。

5. [Path]にファームウェアを格納した場所のパスを入力し[Go]をクリックします。または、[Drive]欄のリンクをクリックします。

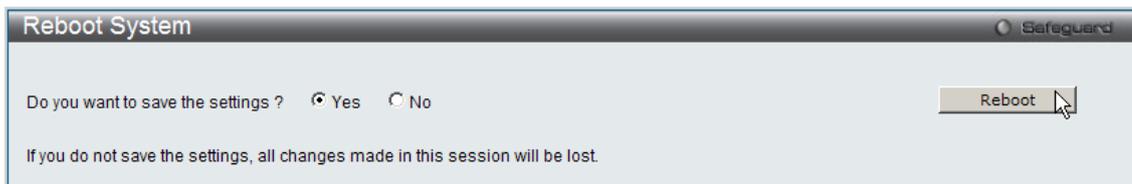
The screenshot shows the "File System" web interface. It includes a "Path" input field containing "C:" and a "Go" button. Below this is a "Copy" button and a table listing available drives.

Drive	Media Type	Size (MB)	File System Type	Label
<a href="#">C:</a>	Flash	29	FFS	

6. 新しいイメージファイルの[Boot Up]をクリックし、ブートアップファイルに指定します。



7. [Tools]→[Reboot System]をクリックします。
8. 以下の画面で「OK」ボタンをクリックし、スイッチを再起動してください。



9. 再度ログインし、ファームウェアがアップグレードされていることを確認します。

**追加機能 :**

ファームウェアバージョン	追加機能
R1.60.B031	1. DGS-1510-52X/A3 をサポート致しました。 ※本ファームウェアバージョンより古いバージョンではサポートされません。

**MIB 及び D-View モジュールの変更点 :**

特になし

**コマンドラインインターフェースの変更点 :**

特になし

## 修正した問題点：

ファームウェアバージョン	修正した問題点
R1.60.B031	<ol style="list-style-type: none"> <li>物理スタック構成において、スレーブユニットの時刻が正しく取得されない問題を修正致しました。</li> <li>RADIUS サーバに接続できない場合に、パケットの宛先がセカンダリサーバに切り替わらない問題を修正致しました。</li> <li>RADIUS 認証において、異なるセッションで同じ"Acct-Session-Id"が使用される問題を修正致しました。</li> <li>IPv6 MLD Snooping の機能において、static-group の設定が再起動後に保持されない問題を修正致しました。</li> <li>音声 VLAN パケットの転送時、音声 VLAN デバイスの学習が完了していない場合にパケットが破棄されず PVID で送信される問題を修正致しました。</li> <li>パスワードの暗号化が有効化されている場合、管理者アカウントを削除しても当該アカウントが有効なままとなる問題を修正致しました。</li> </ol>

## 既知の問題：

ファームウェアバージョン	既知の問題点
R1.60.B031	<ol style="list-style-type: none"> <li>System Name の頭文字を数字にできない問題。(制限事項)</li> <li>IPv4 IGMP Snooping、IPv6 MLD Snooping 機能において、Router Port へ Multicast Stream を Flooding する機能は含まない問題。(制限事項)</li> <li>IPv6 をご利用の環境において、Radius Server 間の認証に Stateless IPv6 Address を使用する場合がありますため、Radius Server には Static IPv6 Address と Stateless IPv6 Address を登録する必要がある問題。</li> <li>Storm Control の機能において、Multicast を指定した場合、IPv4、IPv6 の予約 MAC Address(VRRP、OSPF、IGMP、MLD など)に対して制限が適用されない問題。(制限事項)</li> <li>R1.50.B029 及びそれより古いバージョンをご利用の機器に、R1.60.B025 以降のバージョンの設定を読み込むことができない問題。 <ul style="list-style-type: none"> <li>R1.60.B025 以降のバージョンから、R1.50.B029 及びそれより古いバージョンへのダウングレードにおいて設定を引き継ぐことができません。</li> <li>R1.50.B029 及びそれより古いバージョンをご利用の機器に、R1.60.B025 以降のバージョンのコンフィグをリストアすることができません。</li> </ul> <p>(R1.50.B029 及びそれより古いバージョンから、R1.60.B025 以降のバージョンへの設定の引継ぎは問題ありません。)</p> </li> </ol>

Copyright 2006-2020 D-link Japan K.K.